

【招待講演 － 1】

徳島県水産業概論 ～水産業の「いま」と「これから」～

徳島県農林水産部水産振興課 課長 宮本孝則

徳島県は、延長約 390km に及ぶ海岸線を有しており、播磨灘、紀伊水道、太平洋と地勢的特徴の異なる 3 つの海に面するとともに、一級河川の吉野川、那賀川をはじめ、勝浦川、海部川など数多くの中小河川を有するなど、水環境に恵まれていたことから、古より四季を通じて多種多様な魚介類を採捕・養殖する水産業が、地域の基幹産業の一つとして営まれてきた。

戦後、我が国の水産業は高度経済成長の中で大きく発展を遂げ、本県においても、漁船性能や漁労技術の進歩を背景に拡大の一途をたどってきたが、1979 年の第 2 次オイルショックを境として、現在に至るまで、漁獲量等における「右肩下がり」の傾向に歯止めが掛からない状況にある。特に近年では、漁業者の高齢化や担い手の減少、TPP11 などの経済グローバル化の進展、更には、地球温暖化の進行による漁場環境の変化など、水産業を取り巻く情勢は益々厳しさを増している。

こうした中、本県では、「水産業の明るい未来の創生」に向けた計画的かつ総合的な指針として、平成 27 年 12 月に策定した「とくしま水産創生ビジョン」に基づき、徳島の漁業現場で活躍できる人材を育成する「とくしま漁業アカデミー」の開講や回遊魚を効率的に漁獲するための「中層型浮魚礁」の設置、養殖ワカメ・クロノリの色落ちを抑える専用肥料の開発など、水産業の課題解決に向けた様々な取り組みを進めてきた。

更に、令和元年 7 月には、「水産業の成長産業化の実感」に向けた今後 4 年間の指針となる「とくしま水産創生ビジョン(第 2 期)」を新たに策定し、5G 時代の到来を見据えた IoT、ビッグデータ、AI 等の革新技术の漁業現場への導入推進や地球温暖化への適応戦略としての陸上養殖技術の開発などに取り組んでいる。

徳島県では、2019 年 3 月に徳島文理大学、徳島大学、阿南工業高等専門学校、四国大学との間で「徳島県水産業の成長産業化及び関連産業の振興に関する協定(マリンサイエンスゾーン協定)」を締結し、水産業の課題解決に向けた「産学官の連携強化」を加速させているところである。

今後とも、県民・国民の食を守るべく、日々過酷な現場に立ち向かっておられる漁業関係者とともに、我々マリンサイエンスゾーン関係者も、「水産業の明るい未来」や「水産業の成長産業化」実現の一翼を担う覚悟を持って、すべての「知」の集積と活用場の構築に取り組む必要があるだろう。